

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成30年2月13日
【四半期会計期間】	第66期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部部长 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第65期 第3四半期連結 累計期間	第66期 第3四半期連結 累計期間	第65期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	23,784,993	27,546,948	32,536,189
経常利益 (千円)	2,906,803	3,760,282	3,898,438
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	1,789,597	2,681,838	2,572,498
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,807,443	2,697,364	2,584,957
純資産額 (千円)	11,956,697	14,653,201	12,734,211
総資産額 (千円)	18,837,093	21,674,340	19,500,141
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	57.51	86.18	82.66
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	63.5	67.6	65.3

回次	第65期 第3四半期連結 会計期間	第66期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.78	39.57

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、第1四半期連結会計期間において連結子会社であった株式会社フランセは、連結子会社である株式会社シュクレイを存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。これに伴い、報告セグメントの区分を変更しております。報告セグメントの詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな景気回復の動きが見られた一方で、個人消費は依然として先行き不透明な状況が続いております。また、消費者の商品・サービスに対する選別の目が一段と厳しさが増す中、販売競争が激化するなど、引き続き厳しい環境下で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは「ダブルエスアール（WSR）」の経営スローガンのもと、『超現場主義』を実践テーマに加え、プロフィット部門であります製造ライン、店舗、営業部門における現場中心の経営スタイルに一層磨きをかけ、商品力、販売力・営業力、売場力の更なる向上に努めてまいりました。また、「インバウンド対策の強化」、「海外展開」、「首都圏でのWSR化展開の推進」、「プレミアム・ギフトスイーツの創造と育成」の4つの重点施策を引き続き注力してまいりました。更に、首都圏での経営基盤をより一層強固なものとすべく、平成29年4月1日付で株式会社シュクレイを存続会社とし、株式会社フランセを消滅会社とする吸収合併によるグループ再編を実施いたしました。

これらの取り組みの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は27,546百万円（前年同期比15.8%増）、営業利益は3,730百万円（前年同期比29.4%増）、経常利益は3,760百万円（前年同期比29.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,681百万円（前年同期比49.9%増）となりました。

WSR（ダブルエスアール）とは、グループ経営基本方針として平成27年に掲げた経営スローガン『ワールド サプライジング リゾート（World Surprising Resort）宣言』の略称であり、商品・店舗・接客・営業活動など、あらゆるビジネスのシーンで「世界へ、ありえないほどの驚きの、非日常（超感動）を提供する」という意味が込められています。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、平成29年4月1日付で実施した連結子会社間の吸収合併に伴い、従来、報告セグメントとしておりました「フランセ」を第1四半期連結会計期間より「シュクレイ」に統合いたしており、以下の記載における前第3四半期連結累計期間との比較は、変更後の区分方法により作成した数値を使用しております。

ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、商品面では主力商品「ドゥーブルフロマージュ」及び「小樽色内通り フロマージュ」の販売強化に加え、新商品「テノワール」の拡販に注力いたしました。売上面では、インバウンド対策として注力しております国際線ターミナル免税エリアでの販売が好調に推移しました。その結果、売上高は8,219百万円（前年同期比15.7%増）、営業利益は977百万円（前年同期比10.2%増）となりました。

寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、売上面では、焼き菓子類を中心にグループ向け及び代理店向けが好調に推移しました。また、山陰地区が発売50周年を迎えた銘菓「因幡の白うさぎ」の販売強化などにより堅調に推移しました。生産面では、商品開発の強化に向け、新たな製造ラインを設置し、製品ラインナップの充実を図りました。その結果、売上高は8,308百万円（前年同期比8.9%増）、営業利益は1,121百万円（前年同期比8.4%増）となりました。

シュクレイ

シュクレイは、統合メリットを最大限発揮させるべく、販売面では、「フランセ」ブランドの販売チャネルの絞り込みを実施いたしました。また、生産面では、製造ラインの新設及び改修を行い、商品の一部をグループ間仕入から自社工場生産に切り替えるなど生産体制の改善に注力しました。売上面では、主力ブランドの積極的なプロモーションにより認知度が向上したことに加え、新規出店や新ブランドをリリースしたことなどにより、大幅に伸びました。その結果、売上高は8,332百万円（前年同期比27.1%増）、営業利益は933百万円（前年同期比156.4%増）となりました。

販売子会社

販売子会社は、駅、空港、SA・PAなど交通拠点チャネルを中心に、新製品及び主力商品のコーナー化展開を推進し、堅調に推移しました。その結果、売上高は4,259百万円（前年同期比9.3%増）、営業利益は350百万円（前年同期比9.7%増）となりました。

九十九島グループ

九十九島グループは、売上面では、長崎・佐世保地区は、主力商品「九十九島せんぺい」の販売強化などにより熊本地震の影響による低迷から回復基調にあるものの、福岡地区が、福岡空港改装工事に伴う売場縮小などにより低迷しました。新業態のフレンチトースト専門店「Ivorish（アイボリッシュ）」は、認知度向上に向け首都圏を中心に催事展開を推進しました。その結果、売上高は2,566百万円（前年同期比1.8%増）、営業損失は125百万円（前年同期は営業損失12百万円）となりました。

その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれており、売上高は259百万円（前年同期比33.6%増）となり、営業損失は41百万円（前年同期は営業損失59百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、21,674百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,174百万円増加いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加（1,356百万円）、機械装置及び運搬具（純額）の増加（356百万円）、商品及び製品の増加（284百万円）、建物及び構築物（純額）の増加（284百万円）、流動資産におけるその他の増加（212百万円）、現金及び預金の減少（520百万円）などの要因によるものです。

負債は7,021百万円となり、前連結会計年度末に比べ255百万円増加いたしました。主な要因は、短期借入金の増加（500百万円）、支払手形及び買掛金の増加（241百万円）、賞与引当金の減少（226百万円）、長期借入金の減少（200百万円）などの要因によるものです。

純資産は14,653百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,918百万円増加いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加（2,681百万円）、配当金の支払いによる減少（777百万円）などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.3ポイント増加の67.6%となり、1株当たり純資産は470円86銭となりました。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、37,212千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

前連結会計年度末に比べ従業員数が146名増加しております。このうち、従業員数に著しい増加があったセグメントは、シュクレイ79名、ケイシイシイ36名で、主に業容の拡大に伴うものであります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	91,200,000
計	91,200,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	31,121,520	31,121,520	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	31,121,520	31,121,520	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	31,121,520	-	1,217,800	-	550,269

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしておりません。

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 1,600	-	-
完全議決権株式（その他）（注）	普通株式 31,115,400	311,154	-
単元未満株式	普通株式 4,520	-	-
発行済株式総数	31,121,520	-	-
総株主の議決権	-	311,154	-

（注） 「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が18,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数180個が含まれております。

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎 2028番地	1,600	-	1,600	0.01
計	-	1,600	-	1,600	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,551,463	3,030,495
受取手形及び売掛金	3,592,493	4,948,806
商品及び製品	1,003,805	1,288,714
仕掛品	74,161	105,404
原材料及び貯蔵品	453,360	579,431
その他	784,244	996,974
貸倒引当金	4,276	5,723
流動資産合計	9,455,250	10,944,101
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,333,555	3,618,302
機械装置及び運搬具(純額)	1,748,667	2,104,895
工具、器具及び備品(純額)	374,008	397,954
土地	3,084,438	2,857,139
リース資産(純額)	8,380	6,262
建設仮勘定	52,453	173,496
有形固定資産合計	8,601,501	9,158,048
無形固定資産	103,149	107,677
投資その他の資産		
その他	1,365,774	1,488,959
貸倒引当金	25,533	24,445
投資その他の資産合計	1,340,241	1,464,514
固定資産合計	10,044,891	10,730,239
資産合計	19,500,141	21,674,340
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,246,124	1,487,176
短期借入金	-	500,000
1年内返済予定の長期借入金	318,063	282,896
未払法人税等	819,118	705,226
賞与引当金	590,083	363,484
ポイント引当金	18,414	27,133
その他	1,735,254	1,735,101
流動負債合計	4,727,056	5,101,016
固定負債		
長期借入金	693,142	492,845
退職給付に係る負債	1,156,787	1,247,866
その他	188,945	179,412
固定負債合計	2,038,874	1,920,123
負債合計	6,765,930	7,021,139

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	10,161,317	12,065,158
自己株式	835	1,212
株主資本合計	12,701,443	14,604,907
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,457	49,134
為替換算調整勘定	4,334	3,939
退職給付に係る調整累計額	3,645	3,099
その他の包括利益累計額合計	32,768	48,294
純資産合計	12,734,211	14,653,201
負債純資産合計	19,500,141	21,674,340

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	23,784,993	27,546,948
売上原価	10,560,880	11,939,355
売上総利益	13,224,113	15,607,593
販売費及び一般管理費	10,341,722	11,876,734
営業利益	2,882,391	3,730,859
営業外収益		
受取利息	532	954
受取配当金	4,163	4,094
受取地代家賃	14,132	14,200
その他	24,335	32,034
営業外収益合計	43,162	51,282
営業外費用		
支払利息	9,089	3,987
持分法による投資損失	1,021	9,849
その他	8,640	8,023
営業外費用合計	18,750	21,859
経常利益	2,906,803	3,760,282
特別利益		
固定資産売却益	513	75,468
特別利益合計	513	75,468
特別損失		
固定資産売却損	409	-
固定資産除却損	15,429	9,719
投資有価証券売却損	29,342	-
特別損失合計	45,180	9,719
税金等調整前四半期純利益	2,862,136	3,826,031
法人税等	1,072,539	1,144,193
四半期純利益	1,789,597	2,681,838
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,789,597	2,681,838

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	1,789,597	2,681,838
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18,034	15,677
為替換算調整勘定	906	1,526
退職給付に係る調整額	-	546
持分法適用会社に対する持分相当額	718	1,131
その他の包括利益合計	17,846	15,526
四半期包括利益	1,807,443	2,697,364
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,807,443	2,697,364

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社フランセは、当社の連結子会社である株式会社シュクレイを存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	621,545千円	750,172千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	622,398	60.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	777,997	25.00	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	ケイシイ シイ	寿製菓・但 馬寿	シュクレイ	販売子会社	九十九島 グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	6,325,690	4,652,350	6,432,515	3,884,320	2,296,763	23,591,638
セグメント間の内部 売上高又は振替高	777,200	2,976,541	124,105	12,810	223,975	4,114,631
計	7,102,890	7,628,891	6,556,620	3,897,130	2,520,738	27,706,269
セグメント利益 (は損失)	886,543	1,034,117	364,153	319,550	12,099	2,592,264

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	193,355	23,784,993	-	23,784,993
セグメント間の内部 売上高又は振替高	551	4,115,182	4,115,182	-
計	193,906	27,900,175	4,115,182	23,784,993
セグメント利益 (は損失)	59,084	2,533,180	349,211	2,882,391

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額349,211千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額803,910千円、セグメント間取引消去額16,944千円、たな卸資産の調整額42,355千円、各報告セグメントに配分していない全社費用429,288千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					
	ケイシイ シイ	寿製菓・但 馬寿	シュクレイ	販売子会社	九十九島 グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	7,507,205	5,053,626	8,215,302	4,234,472	2,277,298	27,287,903
セグメント間の内部 売上高又は振替高	712,571	3,255,186	117,283	24,842	289,595	4,399,477
計	8,219,776	8,308,812	8,332,585	4,259,314	2,566,893	31,687,380
セグメント利益 （は損失）	977,072	1,121,189	933,714	350,649	125,297	3,257,327

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	259,045	27,546,948	-	27,546,948
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	4,399,477	4,399,477	-
計	259,045	31,946,425	4,399,477	27,546,948
セグメント利益 （は損失）	41,876	3,215,451	515,408	3,730,859

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外（台湾）における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益（は損失）の調整額515,408千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額977,564千円、セグメント間取引消去額22,989千円、たな卸資産の調整額 39,128千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 446,017千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益（は損失）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

平成29年4月1日付で連結子会社であります株式会社シュクレイは、連結子会社であります株式会社フランセを吸収合併いたしました。これに伴い、従来、報告セグメントとしておりました「フランセ」を第1四半期連結会計期間より「シュクレイ」に統合いたしており、前第3四半期連結累計期間との比較は、変更後の区分方法により作成した数値を使用しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)
 著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)
 著しい変動がないため、記載しておりません。

(企業結合等関係)
 重要な企業結合等はありません。

(1株当たり情報)
 1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	57円51銭	86円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	1,789,597	2,681,838
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	1,789,597	2,681,838
普通株式の期中平均株式数(株)	31,119,909	31,119,870

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)
 該当事項はありません。

2【その他】
 該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月9日

寿スピリッツ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 坂東 正裕 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 英俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。